

4 ロープの結び方

(1) ロープ結索の目的

ひもやロープを使って結び目を作ったり、物を結び付けたりすることを結索（けっさく）と言います。

結索は、日常生活の中に溢れていますが、災害活動や人命救助活動等においても欠くことのできない最も重要な技術の一つです。

(2) 訓練の進め方

指導者は、事故防止に十分配慮して、正確、確実な結び方を指導してください。

ア 携行姿勢

ロープを持って移動するとき、物に引っ掛けたりすると、思わぬ事故を起こします。

そこで、携行結びをし、肩にかけて携行姿勢をとります。



携行姿勢



イ 訓練隊形

訓練の隊形では、指揮者から全員がよく見えること、指示が確実に伝わること等の配慮が必要です。

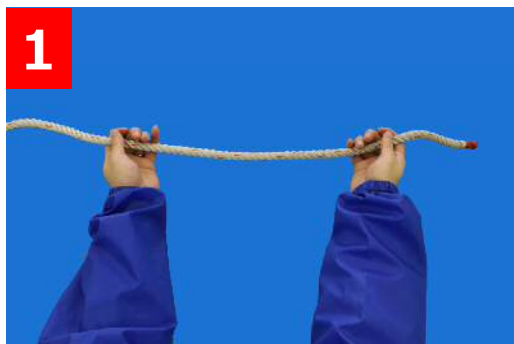
- (ア) 横隊で整列し、指揮者は列の中央の前に立ちます。
- (イ) 指揮者が「番号！」と号令をかけた後、「結索の隊形をとれ！」の号令で中央を基準に両手間隔に広がります。

- (ウ) 「結索用意」の号令で、携行姿勢のロープを肩からはずし、結び目を解いて四つ折りにし、端末及び中心の部分を左手で持ちます。
- (イ) 「〇〇結び用意」の号令で両手に端末を持ち、左足を半歩開きます。
- (オ) 「始め」の号令で結索を開始し、完成したらロープを右手に下げて「基本の姿勢」になります。
- (カ) 「手を上に挙げ」の号令で、右手で結び目を上げて展示します。
- (キ) 指揮者は結び目を確認し、「とけ」の号令をかけます。
- (ク) 再び左足を左に半歩開き、結び目を解いてもとの四つ折りにし、左手に下げ、「基本の姿勢」をとります。
- (ケ) 「携行姿勢をとれ」「もとの隊形にもどれ」「わかれ」の号令で解散します。

(3) 基本の結び

ア もやい結び

ロープに輪を作り、ものに結び付けるための結び方です。



【人やものに結び付ける場合】



【もやい結びの活用方法】



どの方向から力が加わっても輪の部分が伸縮しないので、命綱に適しています。

